

系統立てた「平泉学」への取り組み

～ 平泉の将来を担う人材の育成につながる取り組みとして ～

平泉町教育委員会

1. はじめに

平泉町は岩手県の南部に位置し、西は奥羽山脈、東は北上山地に囲まれた盆地で、中央を流れる北上川に耕地が拓けている。人口約 6,800 人の小さな町で、小学校 2 校に児童 329 人、中学校 1 校に生徒 172 人が在籍している。平安時代末期に奥州全域（東北地域）を治めた藤原氏の政治の中心となった平泉は、豊富に産出された金を利用し、中尊寺金色堂をはじめとする黄金文化が花開き、当時の都をしのぐ勢いがあつたと伝えられている。この中尊寺や浄土庭園を有する毛越寺など 5 つの構成資産による平泉の文化遺産が、平成 23 年 6 月にユネスコの世界遺産に登録され、豊かな自然と歴史が織りなす浄土の風薫るまち平泉には、毎年多くの観光客が訪れている。

2. 教育目標

平泉町では、歴史的遺産を後世に残すため、未来を担う子どもたちに地域について学んでもらう機会として「平泉学」を行っている。

- ①平泉の良さを理解し、平泉に愛着を感じ、平泉を誇りに思う子どもを育てる。
- ②文化遺産について理解し、その価値について理解を深め、文化遺産を尊重する態度を育てる。
- ③平泉学を通じて、平和への願い、未来の自分、平泉について考え、発信する態度を育てる。

3. 教育委員会・学校での取組

【系統立てた平泉学の取り組み】

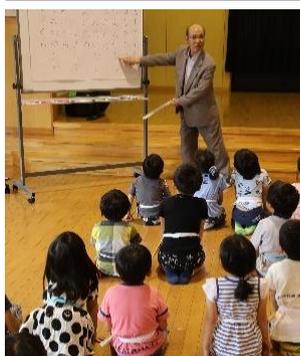
平泉学は、年代ごとにテーマを設け、幼稚園、小学校、中学校と系統的に取り組んでいる。幼稚園では平泉学の導入として地域文化に触れ、小学校では平泉学の考えを踏まえ多彩な取り組みを計画的に実行し、小学校で培ったものを元に中学校でその発展的学習に取り組んでいる。

【町立幼稚園・平泉保育所の平泉学実践活動】

町立幼稚園・平泉保育所では、5、6 歳児が、地域住民の指導により伝統芸能の「謡」を学び、発表会や町のイベントにて披露している。

「謡」特有の節回しのほか、歩き方などの所作についても学び、これから学んでいく平泉学の導入となっている。

地域住民からの指導



能舞台での発表



文化祭オープニングでの披露



【長島小学校の平泉学実践活動】

長島小学校では、4年生が地域に伝わる伝統行事「大文字送り火まつり」についての学習を行った。

1965年から奥州藤原四代の追善やご先祖様の供養を目的として始められた歴史や由来について、地域の歴史家のお話を聞いた後、実際に送り火を行う大文字山に登り、文字の大きさを児童自ら計測し、大の字の1画目が80m、2画目112m、3画目79mととても大きいことを知り、普段遠くから眺めているだけでは分からなかった大きさを実体験する学習となった。

歴史家による事前学習



燃え上がる大文字（8月）



文字の大きさの計測



【平泉中学校の平泉学実践活動】

平泉中学校では、3年生がガイド体験を実施し、これまで学習してきた平泉の歴史や文化遺産を情報発信できるよう、平泉学の集大成となる活動として取り組んだ。

ガイド体験を行うため、読み原稿を自分で書き上げ、何度もガイドの練習を繰り返し、また、観光ガイドからガイドのコツを学ぶなど、平泉の良さをPRできるよう準備を行い、自らの言葉で「平泉を伝える」ことを実践した。

ガイド当日は、町内の各史跡にグループごとに分かれてガイドを行い、積極的に観光客へ話し掛けながら自らの言葉で「平泉を伝える」姿勢を学んだ。平泉を情報発信する担い手として全員が取り組んでいる。

ガイド体験の実践風景



4. おわりに

系統立てた平泉学への取り組みは、幼稚園・小学校・中学校それぞれの年代の発達段階に応じてプログラムされており、学校ごとに地域の素材を活かしながら学ぶ地域学習と、世界に認められた世界遺産を学ぶ世界遺産学習に取り組むことで、郷土の価値を知り、郷土を誇りに思い、郷土の将来について考える機会となっている。

この平泉学の取り組みが、自分に自信と誇りを持ち、平泉の将来を担う人材の育成につながる取り組みとなるよう、今後も継続して進めていきたい。